フ、

〔太平記二〕天下怪異事

藤房卿、○中略御車ヲ差寄、○中略主上○後醍醐ヲ扶乘進テ、陽明門ヨリ成奉ル、○中略兼テ用意ヤシタリケン、源中納言具行、按察大納言公敏、六條少將忠顯、三條河原ニテ追付奉、此ヨリ御車ヲバ被止、怪ゲナル張輿ニ召替サセ進ラセタレドモ、○下略

〔後愚昧記〕永和五年六月廿七日、今日小童十二歳、予(藤原忠嗣)末子、入室威德寺、先向于德大寺、行粧凡不及沙汰、只張絹水干、不著單衣、用張輿、凡言語道斷之體、○下略

〔伊勢貞彌記〕應永廿九年十二月廿一日、爲大御所樣○足利義持御代宮、御方御所樣、○足利義量八幡宮ニ御參籠、○中略御輿ハリゴシ、御力者十二人、

〔看聞日記〕永享二年十月廿六日、辰一點出京、張輿、勸修寺召進力者六人、寺大光明寺進之長資朝臣重賢御共、騎馬

〔親元日記〕寛正六年七月十七日壬戌、上樣、石山寺本尊因去月開帳御參詣、女中御衆、悉御はり輿也、

〔貞丈雜記七輿〕一ぬりごしと云は、漆ぬりのこし也、こしをうるしにてぬるには、赤くも黑くも色をつけず、うるし計にてぬる也、古是を赤うるしと云也、今の世のタメヌリと云物也、

一ちよくれんは、ぬりごしの事也、年中諸大名へ御成記に、御ちよくれんとて、常の御ぬりごしにて御參内も在之云々、ちよくれんは、直輦と書なるべし、走衆故實には、御直簾とあり、簾の字は非なるべし、

〔續視聽草初集十〕乘物名目

塗輿　是ハ轅輿ノコトニテ、今ノ乘物ノ制ニハ預ラズト云ヘドモ、古實西譚ニ、其義四方輿ノ代ナリト云コトアリテ、當時乘物ノ制ニ引用スル打揚ノ意味アルヲ以テ、爰ニ其名目ヲ擧ルナリ、古實西譚ニ云、塗輿ハ四方輿ノ代ナリ、當時ハ車ノ代リ、諸家之輿ハ有廂、僧幷武士ハ無廂云々、

〔守貞漫稿後集三駕車〕塗輿

塗輿